

編集発行責任者 伊藤 洋

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

TEL:03-3603-2111(代表)

URL:http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/

INDEX

01. 診療科紹介
02. 部署紹介、公開セミナーを開催しました
03. 連携病院のご紹介
04. フロアコンサート、患者さんの声について、
認定看護師による取り組み

診療科紹介



耳鼻咽喉科

飯田 誠 診療部長

あらゆる疾患に対応しているが、その中で特に慢性副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻内副鼻腔手術、鼻中隔矯正術などの症例数が多く当科の得意分野といえます。当科の特徴として入院患者さんの約半数は臨時および救急の患者さんであることです。急性扁桃腺炎、扁桃周囲膿瘍、喉頭浮腫、頸部膿瘍などの急性炎症性疾患、急性感音性難聴、顔面神経麻痺、めまい症などの疾患で、可能な限り受け入れるようにしております。また平成24年度より睡眠時無呼吸の入院検査ならびにCPAP導入やそのための検査(タイトレーション)を開始しております。

実績

【平成29年1月～平成29年12月実績】

- 外来患者数 約1,400名/月(うち新患322名/月) ●入院患者数 63名/月
- 平均紹介患者数 170名/月 ●手術件数 777件(のべ件数)

【手術件数(主なもの) ※術式/症例数】

- 内視鏡下鼻内副鼻腔手術/138例 ●鼻中隔矯正術/77例 ●下鼻甲介切除術/109例
- 鼻副鼻腔腫瘍摘出術/6例 ●顕微鏡下喉頭微細手術/9例 ●アデノイド・口蓋扁桃摘出術/228例
- 鼓膜換気チューブ留置術/60例 ●唾液腺腫瘍摘出術/14例 ●甲状腺手術/15例 ●気管切開術/15例

糖尿病・代謝・内分泌科は糖尿病患者の初期教育から入院、外来インスリンおよびGLP-1導入、透析予防指導管理やフットケアにいたるまで幅広く受け入れます。糖尿病教育に関しては糖尿病専門医、糖尿病療養指導士をはじめ、患者指導に熟練した多職種メンバーで構成されたチーム医療でコントロール困難な患者を生活習慣改善の面からサポートします。また、CGM(24時間血糖持続測定)やFGM(フラッシュグルコースモニタリングシステム)を用いたきめ細かな血糖変動の解析ができるとともに、1型糖尿病に対するインスリンポンプによる治療にも対応します。一方、当科は妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠の治療経験に長けており、当院産婦人科と協力して妊娠中の細かい血糖管理を行います。研究に関しては以下の4臨床研究が進行中です。

- ①低血糖と認知機能に関する研究
- ②妊娠糖尿病の糖負荷試験結果と周産期合併症の関連
- ③神経伝導検査装置(DPNチェック)を用いた糖尿病性神経障害の評価
- ④糖尿病患者のOCTによる網膜厚と臨床パラメータの関連

また、内分泌疾患は脳下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患を中心に負荷試験を含めた入院精査および外来治療に対応します。

糖尿病・代謝・
内分泌科

横田 太持 診療部長

部署紹介

入退院・医療連携センター



根本 昌実 センター長

充実した医療を患者さんが受けられるように、入退院・医療連携センターは患者さんの療養相談の窓口となり、地域の医療機関と連携してサポートしています。様々な相談内容に対応できるよう専門職を配置し、患者さんの個別のご相談に応じた「医療コーディネート」を行っています。今後も地域に根ざした、顔の見えるセンターとなるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



入退院のトータルコーディネート（看護師）

入院が決まった時から、患者さんが安心して治療に臨み、適切な医療・療養環境が提供できるよう、療養上の問題や療養環境の調整をいたします。退院後も地域の医療機関と連携をとりながら、トータルなコーディネートを行います。

社会福祉相談（医療ソーシャルワーカー）

患者さんが安心して治療に専念できるように、社会福祉の専門家である医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）が、生活の質を第一に考えて患者さんやご家族と同じ「生活者の視点」で問題解決のお手伝いをいたします。

外来WEB/FAX予約・各連携問い合わせ（医療事務）

患者さんがスムーズに受診できるよう「病院の窓口」として活動をしています。診療予約および「セカンドオピニオン」の申込み受付、登録医事務局を行っています。また、自宅に近い医療機関に受診する逆紹介のサポート（担当医への医療機関情報提供）も行っています。

公開セミナーを開催しました

平成30年2月10日（土）に当医療センター5階講堂にて、第48回葛飾医療センター公開セミナーが開催されました。

テーマは「しびれについて」第1部、神経内科 森田 昌代先生から「手足のしびれ…どうしていますか?」、第2部では栄養部 課長 吉田 久子による「食べているのに低栄養?高齢者の食事」の演題でお話をいただきました。

参加者は72名であり参加者からの質問も多く、大変有意義な時間になったと考えています。

来年度は第49回（6月）、第50回（9月）、第51回（平成31年2月）を予定しております。詳細が決まりましたら改めてご連絡させていただきます。



連携病院のご紹介

足立共済病院 院長 山本 学



当院は昭和31年に診療所として開院し、現在は慈恵医大青戸病院（現葛飾医療センター）外科出身の院長山本学と水谷央副院長、および元青戸病院長で産婦人科の有廣忠雅副院長を中心とした、地域医療中心の病院です。

非常勤医としては、慈恵医大をはじめ、東京女子医科大学、東京警察病院、順天堂浦安病院などにご支援を頂き、外科、内科、婦人科、内視鏡科、脳神経外科、形成外科、整形外科、皮膚科、小児科など、かかりつけ医としての機能を最大限に発揮できる医療を提供しております。

ベッド数は54床とコンパクトではありますが、診断や治療における最先端の医療機器を備え、大小さまざまな医療機関と密接に連携し、地域医療に貢献しております。

慈恵医大葛飾医療センターとは強い協力関係を結んでおり、今後とも関連病院の一つとして、医療連携を発展させていきたいと考えております。

詳しくはHP、adachi-kyosai.comをご覧くださいませ幸いです。



交通案内

電車

京成線「京成関屋駅」より徒歩5分。
東武スカイツリーライン「牛田駅」より徒歩5分。

車

専用駐車場のご用意がございます（有料：割引あり）。



石川循環器クリニック 院長 石川 辰雄

青戸1丁目で開業して、早27年が経ちます。ここまで来れたのも地域の皆様、葛飾医療センターをはじめとする地域の医療機関のお蔭であると思っております。私の実家は、現在クリニックのある場所で、私が小学生の頃まで味噌醸造業を営んでおりました。味噌の消費はそのころから急速に低迷し、廃業しました。私は子供のころ体が弱く、自家中毒で2～3回死にはぐったと今でも母は言います。そんなこともあり、小児科医を目指すことになりました。小児科に入局後、いつの間にか子供の心臓病の診療をするグループに加わり、国内や海外留学の経験を積みました。特に海外留学中は成人心臓病の診療にも携わりました。現在は新生児から老人までの心臓病を診療対象として、研鑽しています。その他、今でこそ発症件数が激減した麻疹の予防接種Ⅱ期の導入に関心を持ち、また産業医として、在宅診療などでも活動してきました。

私は、「患者さんとしっかり向き合い、丁寧に、優しく、誠実に」をモットーにして診療を行っております。今後とも葛飾医療センターの先生方には、患者さんの紹介で大変お世話になります。先生方と手を取り合い、地域の医療と保健の向上に邁進する所存です。これからもよろしくお願い致します。

交通案内

電車

京成線「青砥駅」より徒歩5分。

車

無料駐車場のご用意があります。



フロアコンサート の開催について



平 成29年12月9日(土)に、当医療センター1階のロビーにてフロアコンサートを開催しました。今回は「ドレミファソランド」のメンバーをお招きし、皆さんにトーンチャイム演奏をお楽しみいただきました。

「ドレミファソランド」は、医療施設や福祉施設などで幅広く演奏活動しているグループで当医療センターでも平成28年6月に演奏を行っております。トーンチャイムは、複数のメンバーがハンドベルを共鳴させることで優しい音色を奏でる楽器であり、当日は「きよしこの夜」や「もみの木まなかに」など、クリスマスソングを演奏いただきました。今後も、皆さんに「癒し」をお届けする企画を開催して参りますので、ぜひご参加ください。

●業務課 北里 景子

◆◆◆◆◆ 「患者さんの声」について ◆◆◆◆◆

当 医療センターでは、皆さまからのご意見やご感想を受け付けるご意見箱を院内に設置しております。皆さまの声は今後の病院運営の参考にさせていただき、より良い医療の提供に努めたいと存じます。なお、皆様からの貴重なご意見に対する回答を病院ホームページならびに、1階正面玄関脇のご意見箱付近の掲示板に掲示しております。

過去の「患者さんの声」

●ご意見 (H29年10月)

内視鏡検査受付への来院時間を検討していただきたい。(8時までに来院の案内であったが、再来受付機の稼働が7:55開始であるため、内視鏡受付への到着が間にあわない)



〈回答〉

貴重なご意見ありがとうございます。内視鏡検査受付への来院時間の案内を「8:10まで」に変更致しました。

●ご意見 (H29年10月)

視力が弱く、待合室のモニターに表示される受付番号が見えないので、名前で呼んでもらいたい。



〈回答〉

配慮が足らず、申し訳ありませんでした。目の不自由な方には、ご本人の希望を確認して名前で呼び致します。ご遠慮なくお申し出ください。貴重なご意見ありがとうございました。

◆◆◆◆◆ 認定看護師による取り組み ◆◆◆◆◆

●透析看護認定看護師 (透析看護認定看護師 及川 千鶴)

透 析看護認定看護師は、透析を受けている患者さんだけでなく、慢性腎臓病の患者さんとそのご家族に対して、病気があっても健康的に安定した生活が過ごせるように支援を行っています。慢性的に経過する疾患のため、慢性腎臓病の患者さんには残腎機能を可能な限り長く維持できるように、透析が必要となった患者さんにはその人にとって最善の療法選択ができ、透析療法を受けながらその人らしく生活していくことができるようにサポートしています。

腎臓の働きが低下していくと、薬物療法だけではなく食事療法や透析療法が生活の一部となります。今までの生活習慣を変えること、治療を継続することは時には不安になることもあります。不安や日常生活の困りごとなどありましたら、看護師まで声をかけてください。